



本事業は、SDGsの「17 パートナシップで目標を達成しよう」に資する取組です。

2024年10月16日（水）

愛知県政策企画局

国際課渉外・交流グループ

担当 上窪、中根

内線 2256、2446

ダイヤル 052-954-6181

愛知県経済産業局産業部

産業立地通商課国際業務企画グループ

担当 篠田、鈴木

内線 5296、5298

ダイヤル 052-954-6356

## 知事の中国渡航中の行事結果について

2024年10月15日（火）午前、知事は中華人民共和国北京市において、トヨタ自動車が出資するPony. ai ポニー エーアイの北京オフィス、トヨタ自動車の中国における燃料電池の生産拠点である華豊燃料電池有限公司 かほうねんりょうでんちゆうげんこうしを訪問しました。

午後には、広東省広州市に移動し、在広州日本総領事館の総領事と面談しました。（10月14日（月）追加分：中国全国人民代表大会外事委員会主任委員との面談）

### 1 Pony. ai 及び華豊燃料電池有限公司訪問（担当：産業立地通商課）

#### (1) 日時

2024年10月15日（火）午前8時50分から午前11時10分まで

（日本時間10月15日（火）午前9時50分から午後0時10分まで）

#### (2) 場所

Pony. ai 北京オフィス（北京市）

華豊燃料電池有限公司本社（北京市）

#### (3) 応対者

うえだたつろう

上田達朗

トヨタ自動車（中国）投資有限公司 董事長兼総経理

トヨタ自動車株式会社 執行役員 中国本部長

はまだたけお

浜田岳生

トヨタ自動車（中国）投資有限公司 執行副総経理

いいたまたか

飯田昌孝

華豊燃料電池有限公司 副総経理

よこいたかのり

横井孝典

華豊燃料電池有限公司 販売・アフター部 副部長

こんのりしげ

紺野周重

聯合燃料電池系統開発（北京）有限公司 FCシステム開発部 部長

#### (4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

#### (5) 内容

大村知事は、トヨタ自動車が出資する自動運転技術の開発を行うPony. aiの北京オフィス、トヨタ自動車と中国企業との燃料電池などに関する合弁企業である華豊燃料電池有限公司を訪問し、最新の燃料電池生産拠点を視察しました。

始めに大村知事は、Pony. aiにおいて、同社の自動運転技術とトヨタ自動車の自動車制御技術により共同開発された、運転席と助手席に人が乗車しないレベル4※の無人自動運転自動車「ロボタク」の概要や、北京や広州、深圳、上海の自動運転実証エリア内で行われているロボタクの実証実験の内容について説明を受けました。

その後、Pony. ai から華豊燃料電池有限公司までの間をロボタクに乗車して移動しました。

華豊燃料電池有限公司に到着後、今年の8月に生産を開始した新工場の概要や、中国国内向けの商用車用燃料電池システムの説明を受けました。

続いて、燃料電池の製造ラインを訪れ、手作業による細かな生産工程やロボットによる出荷検査の様子を視察しました。視察の最後に、飯田副総経理からサインを求められ、サインに「夢」の文字を添え激励しました。

視察後には意見交換を行い、トヨタ自動車（中国）投資有限公司の上田董事長兼総経理から、中国国内における燃料電池自動車の無人自動運転の開発状況等について説明がありました。

大村知事からは、愛知県ではトヨタ自動車を始めとした多くの企業と一体となり、「中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議」の取組を積極的に進めており、水素やアンモニアのサプライチェーンの構築や、FCトラックの導入と大型水素ステーションの整備に向けた取組を推進していることや、県内の様々な分野で水素関連プロジェクトを進めていることを説明し、水素社会の実現に向けた様々な取組について意見交換を行いました。

その他、愛知県の取組として、今年の11月から名古屋市内で自動運転車両の定期運行の実証実験を実施することや、10月末にグランドオープンする「STATION Ai」について紹介し、上田氏からは「これからも愛知県が日本をリードしてほしい。」と期待するコメントがありました。

※ 走行場所や速度、天候など、一定の条件下において無人走行が可能。

#### <Pony. ai 概要>

- (1) 設 立 2016年（米国シリコンバレーにて創業）
- (2) 代表者 ジェームズ・ペン最高経営責任者（CEO）
- (3) 事業概要
  - ・自動運転に必要な自律走行ソフトウェア（AI）を開発するスタートアップ。北京、上海、広州、深圳などに拠点を構える。
  - ・2020年、トヨタ自動車が出資。同社生産車種を使用した自動運転の実証実験を行っている。

#### <華豊燃料電池有限公司概要>

- (1) 設 立 2021年
- (2) 代表者 とうちようせい 董長 征
- (3) 事業概要
  - ・商用車用燃料電池システム・スタックの生産・販売を行う。
  - ・商用車向け燃料電池システムは既に中国で販売されており、いずれも高出力密度と3万時間以上に及ぶ超長期耐久性能を実現している。



無人自動運転自動車に乗車時の様子



製造ライン視察



飯田副総経理との記念撮影



上田董事長兼総経理と記念品交換

## 2 駐広州日本国総領事との面談（担当：国際課）

### （1）日時

2024年10月15日（火）午後6時40分から午後7時40分まで  
 （日本時間10月15日（火）午後7時40分から午後8時40分まで）

### （2）場所

駐広州日本国総領事公邸（広州市）

### （3）面談者

きじまよしこ  
 貴島善子 駐広州日本国総領事

### （4）愛知県側出席者

大村秀章知事

### （5）内容

大村知事は、貴島善子駐広州日本国総領事と面談しました。

大村知事から、深圳日本人学校の児童が亡くなった事件に触れたところ、貴島総領事から「愛知県からは非常に多くの企業が広東省に進出しており、安心安全なビジネス環境のため、当局にも必要な措置を求めている。」との発言がありました。

また、大村知事は、愛知県の製造品出荷額が過去最高を更新し、52兆4千億円（2022年）となったことなど愛知県の経済について紹介しました。続けて、今月10月31日にオープンする日本国内最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」についてPRしたところ、貴島総領事からは「これまで日本にはなかったスタートアップのエコシステムがようやくできた。」との発言がありました。

さらに、大村知事は、今年3月にフルオープンしたジブリパーク、世界最高クラスとなる<sup>アイジー</sup>I Gアリーナ（愛知国際アリーナ）、2026年に愛知・名古屋で開催するアジア競技大会・アジアパラ競技大会、2028年に日本・愛知開催が決まった技能五輪国際大会についてPRしました。

貴島総領事からは、広東省の経済を中心に現地情勢について説明がありました。



貴島総領事との面談の様子



出席者の皆さんとの記念撮影  
(前列右から2人目が貴島総領事)

(10月14日(月)の行事結果(10月15日(火)に未発表の内容))

### 3 中国全国人民代表大会外事委員会主任委員との面談(担当:国際課)

#### (1) 日時

2024年10月14日(月)午後3時から午後3時50分まで

(日本時間10月14日(月)午後4時から午後4時50分まで)

#### (2) 場所

全国人大機関办公楼(北京市)

#### (3) 面談者

<sup>ろうきんけん</sup>婁勤儉 中国全国人民代表大会 外事委員会主任委員(元江蘇省書記)

#### (4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

<sup>かなすぎけんじ</sup>金杉憲治 駐中国日本国大使

#### (5) 内容

大村知事は、愛知県と友好提携を結んでいる江蘇省の元書記であり、現在は、中国全国人民代表大会外事委員会主任委員の婁勤儉氏と面談をしました。婁主任委員が、

江蘇省書記として 2019 年に愛知県を訪問されて以来 5 年ぶりの再会となりました。

婁主任委員からは、「北京で古き友人である大村知事に再会できて嬉しい。愛知県と江蘇省の友好関係は今でも中日両国の地域の友好関係の手本となっている。」との発言がありました。

大村知事は、「江蘇省とは、変わらず良好な関係が続いており、友好提携 45 周年に当たる来年は、相互に訪問することで調整をしている。今回の渡航ではこの後、広東省を訪問し、5 周年を迎えた友好提携関係を一層深めるとともに、経済発展の著しい深圳市も訪問する予定である。」と発言しました。その上で、「深圳で日本人学校の児童が刺殺された事件は、極めて遺憾であり、被害者の御冥福をお祈りする。広東省を始め中国には多くの県内企業が進出しているため、在中邦人、とりわけ子供たちの安全確保のための措置を、引き続きお願いしたい。なお、深圳では、多くの市民が花をたむけるなど哀悼の意を表していただいている。両国民の間には、こうした相互に思いやる気持ちがあり、これからも日中関係を前に向けて進めていきたい。」と発言しました。これに対し、婁主任委員からは、「このような事件が起こることは、大変残念で痛ましいことである。中国側は一貫して日本人を含む訪中・在中の外国人の安全を重視し、日本人を含む各国の友人の中国への旅行、勉学、ビジネス、生活を歓迎しており、引き続き有効な措置を取り、すべての人々の安全を守る。」との発言がありました。

続いて大村知事は、愛知県が日本一のものづくり産業の集積地であることを説明した上で、今月オープンする日本最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」を核とするイノベーション創出への取組や、清華大学との包括提携による傘下の Tus ホールディングスと連携したスタートアップ支援について説明したほか、大学との連携では、上海交通大学、浙江大学とも包括提携を結び学生交流や人材育成などを行っていることを紹介しました。

また、今回視察する予定の中国企業のシノハイテックとトヨタ自動車の合弁による燃料電池の研究開発・生産事業を紹介し、「こうして日本と中国の企業が水素利用の分野で協力していることを嬉しく思う。」と発言しました。

さらに、大村知事は、「ジブリパークが 2 年前にオープンし、中国からも多くの方に来ていただき賑わっている。婁主任委員にもぜひお越しいただきたい。」と発言したのに対し、婁主任委員から、「ジブリパークは多くの人に愛されており、人々の交流に寄与していると思う。」と発言がありました。

加えて、大村知事は、「2026 年に愛知・名古屋でアジア競技大会及びアジアパラ競技大会が開催されるため、昨年、杭州大会でフラッグ・ハンドオーバー・セレモニーに出席した。杭州大会から旗を引き継ぎ、愛知・名古屋大会を素晴らしいものにした。」と発言しました。これに対し、婁主任委員から、「愛知・名古屋で成功裏に開催されることをお祈りする。」との発言がありました。



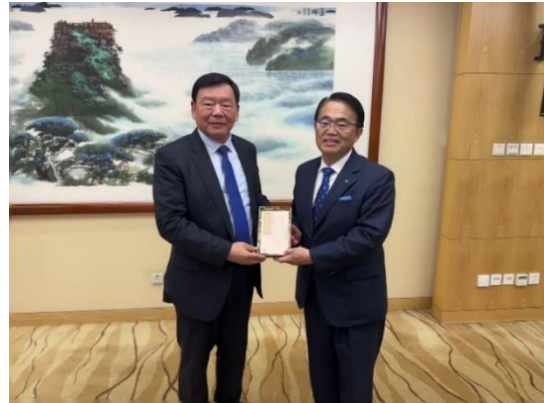
婁主任委員との面談の様子



出席者の皆さんとの記念撮影  
(左から4人目が婁主任委員、6人目が金杉大使)



婁主任委員との記念品交換①



婁主任委員との記念品交換②